

自第一號（平成二十七年六月）
至第四號（平成二十八年三月）

東洋史研究

第七十四卷 總目次

東洋史研究會

論 說

「職貢圖」とその世界観……………	河上麻由子	一	(一)
黎朝聖宗の目指したもの——十五世紀大越ヴェトナムの對外政策——	八尾 隆生	一	(三五)
朝鮮時代の支配について……………	矢木 毅	一	(七)
ハサン・フェフミ・パシャとオスマン國際法學の形成……………	藤波 伸嘉	一	(二七)
北周侍衛考——遊牧官制との關係をめぐって——……………	會田 大輔	二	(二七)
河西と代北——九世紀前半の唐北邊藩鎮と遊牧兵——……………	村井 恭子	二	(三五)
直睿思殿と承受官——北宋末の宦官官職——……………	藤本 猛	二	(二六)
首都の地位を奪われた南京——『洪武京城圖志』研究序説——……………	新宮 學	二	(二九)
19世紀後半ロシア帝國ヴォルガ・ウラル地域のムスリムの遺産分割争い ——オレンブルグ・ムスリム宗務協議會による「裁判」とイスラーム法——……………	磯貝 眞澄	二	(三六)
序言……………	夫馬 進	三	(三八)
「在民の役」…『巴縣檔案』に見える郷約像——前近代中國の國家による社會支配の側面——……………	伍 躍	三	(三九)
清末巴縣鄉村部の徵稅請負と訴訟の關係——特に抬塾をめぐって——……………	小野 達哉	三	(四三)
清末巴縣の「健訟棍徒」何輝山と裁判的調解「憑團理剖」……………	夫馬 進	三	(四五)
清代巴縣農村の租佃實態——「抗租」「騙租」と「主客關係」——……………	凌 鵬	三	(四四)
清代中期の重慶商業界とその秩序……………	谷井 陽子	三	(五九)
清代後期の夫婦間訴訟と離婚——『巴縣檔案(同治朝)』を中心に——……………	水越 知	三	(五五)

訴訟關係文書を通してみた清代社會における女性	白井佐知子	三	(五九)
漢代における經學講論と國家儀禮——釋奠禮の成立に向けて——	保科 季子	四	(六四七)
唐後半華北諸藩鎮の鐵勒集團——沙陀系王朝成立の背景——	西村 陽子	四	(六七八)
五代中原王朝の朝儀における謝恩儀禮について——正衙謝と中謝——	松本 保宣	四	(七六)
胡椒と佛郎機——ポルトガル私貿易商人の東アジア進出——	中島 樂章	四	(七五五)
近代中國ムスリムのイスラーム法解釋——非ムスリムとの共生をめぐる——	中西 竜也	四	(八五六)

書 評

藤本 猛著 『風流天子と「君主獨裁制」——北宋徽宗朝政治史の研究——』	久保田和男	一	(二〇五)
奥村 哲編 『變革期の基層社會——總力戰と中國・日本——』	菊池 一隆	一	(二二五)
小沼孝博著 『清と中央アジア草原——遊牧民の世界から帝國の邊境へ——』	野田 仁	二	(三三三)
三谷 孝著 『現代中國祕密結社研究』	孫 江	二	(三四一)
荷見守義著 『明代遼東と朝鮮』	木村 拓	四	(七五九)
谷井陽子著 『八旗制度の研究』	岡 洋樹	四	(八〇一)
夏井春喜著 『中華民國期江南地主制研究』	笹川 裕史	四	(八〇〇)

紹 介

河内良弘編著・本田道夫技術協力 『滿洲語辭典』	磯部 淳史	一	(一三七)
-------------------------	-------	---	-------

附 録

『巴縣檔案』輪讀會檢討語彙集……………小野 達哉 三(六三)

近 刊 叢 欄

一(一三) 二(三九) 三(六四) 四(八八)

大 會 抄 録

代北と中原——北朝の史學と正統觀……………田中 一輝 三(六三)

中華民國北京政府時期 of 清室優待條件と北京旗人社會……………阿部由美子 三(六五)

中華民國袁世凱政權による國家儀禮の模索……………吉澤誠一郎 三(六六)

ティムール朝末期における支配者とイスラームの諸相……………杉山 雅樹 三(六六)

オスマン朝の敕令起草過程で作成される文書類型について……………高松 洋一 三(六七)

——大宰相府と財務長官府の協働の觀點から……………岡 美穂子 三(六八)

十七世紀前半東アジア海域におけるスペイン・ポルトガル勢力の紛争と外交……………村上 恭通 三(六九)

——マカオ事件(一六〇八)とアユタヤ事件(一六二八)をめぐって……………古畑 徹 三(七〇)

中國における銅鐵生産の起源と展開……………森田 憲司 三(七一)

金毓黻『渤海國志長編』の成立過程について……………

中國近世の「墓誌」について……………